
平成22年2月28日の津波騒動に関するアンケート

【2010/03/23 時点の暫定資料】

群馬大学 災害社会工学研究室
株式会社 アイ・ディー・エー

調査方法

インターネット調査会社(楽天リサーチ)に依頼

調査対象

津波警報(津波および大津波)が発表され、かつ津波到達時刻が15:30以前と予想された市町村に居住し、自宅が避難勧告・指示の対象となったモニター
ただし、

- ・津波注意報が発表されたオホーツク海沿岸の市町村は対象とした
- ・沖縄本土を除く“島”(小笠原諸島、伊豆諸島、種子島・屋久島地方、大東島地方、奄美諸島・トカラ列島、淡路島南部、宮古島・八重山地方)は対象外とした

スクリーニング調査概要

上記の調査対象者を募るために、本調査の前に以下のようなスクリーニング調査を実施した

(1) 今回の津波騒動時に、自宅は避難勧告の対象となったか？

→Noであれば、その時点で調査は終了し、対象外となる

(2) 現在の居住地はどこか？

→選択した居住地が沿岸部でなければ、その時点で調査は終了し、対象外となる

調査実施日

平成22年3月8日夜～10日午前

回収数

2,200人

結果の概要(2010/03/18時点)

インターネット調査によって得られた結果であるため、その回答者は母集団(調査対象者)に対して偏ったサンプルとなっている可能性もあることに注意する必要がある。

27日15:34(日本時間)の地震発生から28日朝までの様子について

- ・半数の回答者は、27日夜の時点でチリで大きな地震が発生したとの情報を得ていた
- ・1960年のチリ津波のことを知っていた回答者の多くは、27日夜にチリで大きな地震が発生したことを知った際に、日本列島への津波の襲来を思い浮かべ、情報に注意していた

28日9:33の津波情報発表直後の意識について

- ・半数以上の回答者が、津波情報が発表された直後にテレビ・ラジオから津波情報を得ていた
- ・津波情報発表直後にそのことを知った回答者の半数は、予想された津波の高さよりも大きな津波が襲来する可能性は低いと思っており、また同様に回答者の半数は、予想された津波の高さよりも小さな津波が襲来する可能性が高いと思っていた

28日の津波情報発表後の行動について

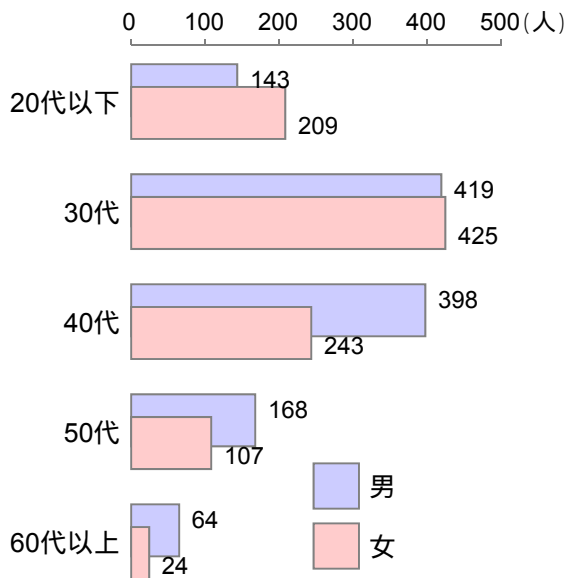
- ・避難勧告・避難指示が発表された地域の回答者の28日の行動を集計した結果、「津波のことを意識して外出した」回答者も含めると、「自宅外に避難した」割合は、18.5%であった
- ・この値は、消防庁が発表した避難所避難率(3.8%)の約5倍であり、行政が把握している避難者数よりも、実際には多くの沿岸住民が津波のことを意識して、自宅を離れていたものと考えられる
- ・指定避難場所以外に避難した理由として、「避難が長時間になることを想定して、指定避難場所よりも快適な場所に避難した」ことがもっとも多く挙げられていた
- ・避難場所、外出先から帰宅した理由として、「第一波が小さかったから」、「各地の様子から大したことはないと思ったから」が、津波情報・避難情報の解除や格下げよりも高い割合で指摘されていた
- ・当日の行動を居住地域に発表された津波情報の予想津波到達時刻別に時系列でまとめた結果、予想到達時刻前後で避難率がもっとも高くなっており、その後急激に避難率は低下していた

今回の津波騒動に対する感想

- ・大津波警報が発表されたにもかかわらず、津波情報を聞いて、今回も大したことはないだろうと思った回答者が半数以上であった
- ・今回の津波騒動時には、沿岸地域で道路の閉鎖や鉄道の運行見合わせなどの対応がとられたが、このような対応に対して否定的な回答者よりも、肯定的な回答者の割合が高かった
- ・今回の津波騒動を受けても、6割以上の回答者は、今後も今回同様の対応をとるべきだと思っている

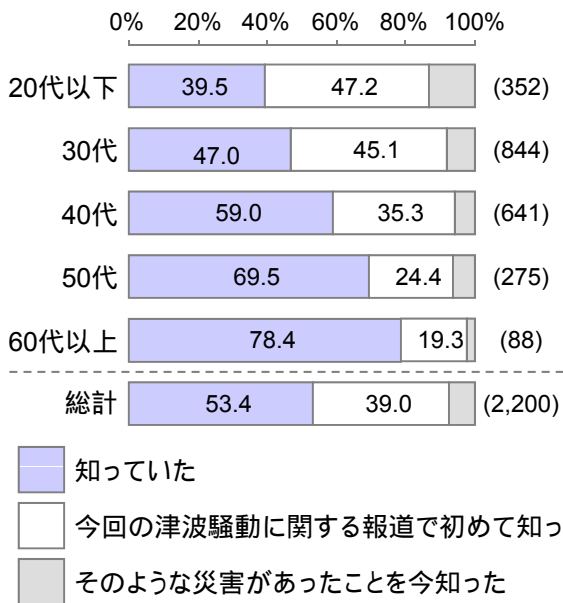
1. サンプル特性 (1) 個人属性

性別・年齢分布



他の調査実施方法と比べ、30代、40代の比較的若い世代から多くの回答を得ることができた

1960年チリ津波に関する知識の有無

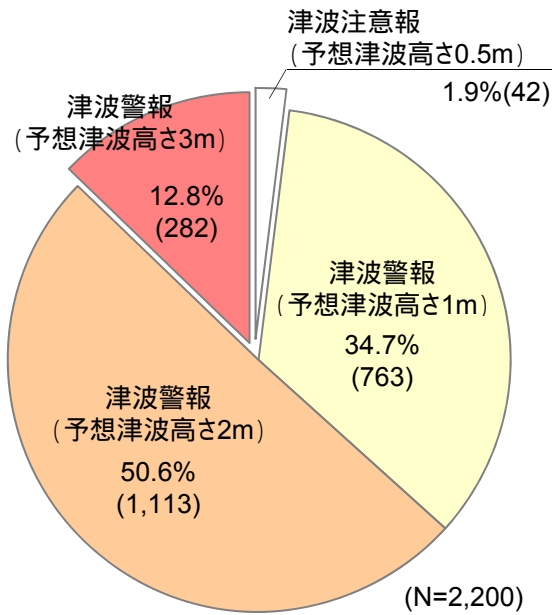


50年前に発生したチリ地震津波について、今回の津波騒動前に知っていたのは、全体でも半数程度であり、若い人ほど、過去の被災を知らない傾向が顕著に見られた

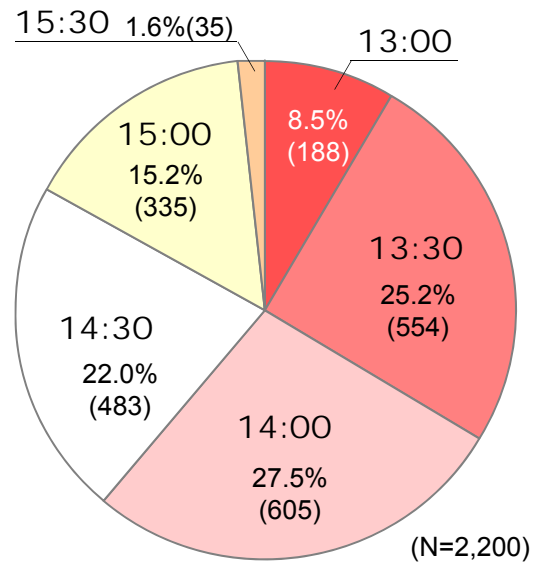
1. サンプル特性 (2) 居住地特性

気象庁から発表された津波情報による分類

(1) 予想津波高さ



(2) 予想津波到達時刻

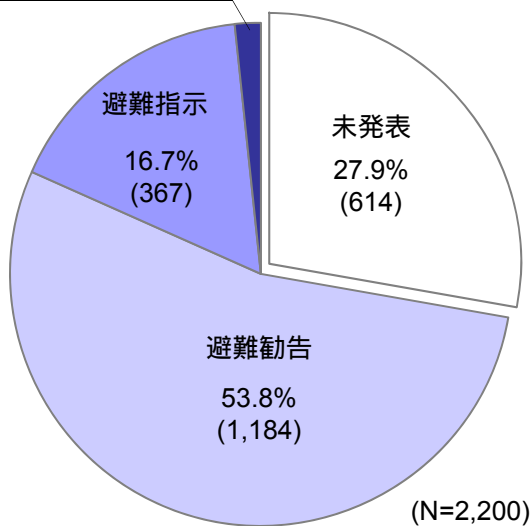


津波注意報は、オホーツク沿岸の市町村に居住するモニター

市町村が発表した避難情報による分類

勧告・指示の

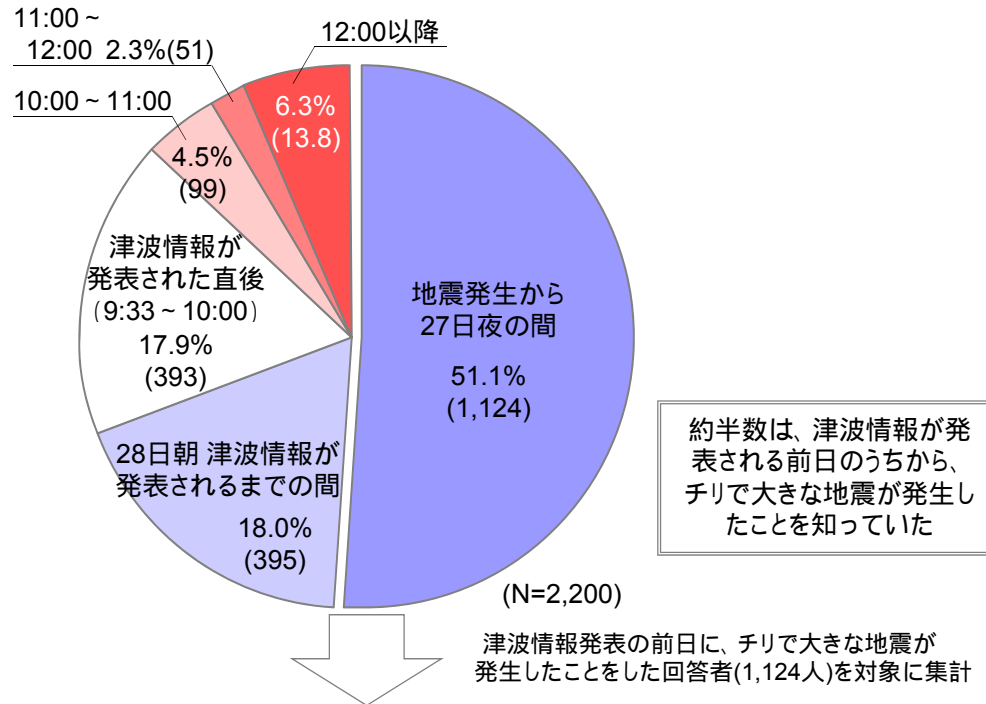
両方を発表 1.6%(35)



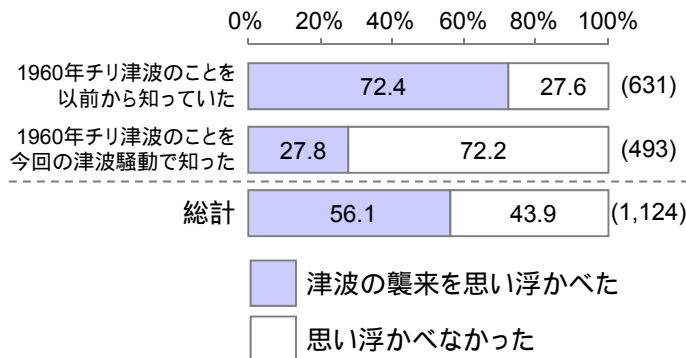
スクリーニング調査により、自宅が避難情報の対象となったと回答したモニターのみに本調査を回答してもらったが、居住地から避難情報の発表状況を確認すると、「実際には避難情報が発表されていないのに、発表されたと勘違いしているモニター」が27.9%(614人)も含まれていた

2. 地震発生(2/27 15:34)から津波情報発表(2/28 9:33)までの行動

チリで大きな地震が発生したことを知った時刻

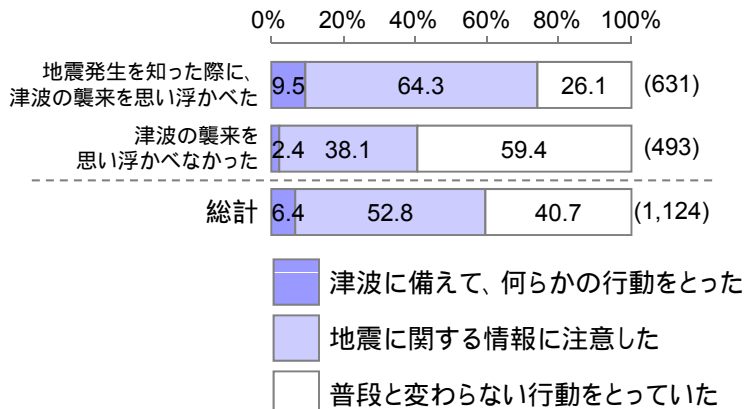


チリで大きな地震が発生したことを最初に知った際の津波の想起



1960年チリ津波のことを知っていた住民ほど、地震発生を知った際に、津波の襲来を想起した

27日夜から津波情報が発表された28日朝までの行動について

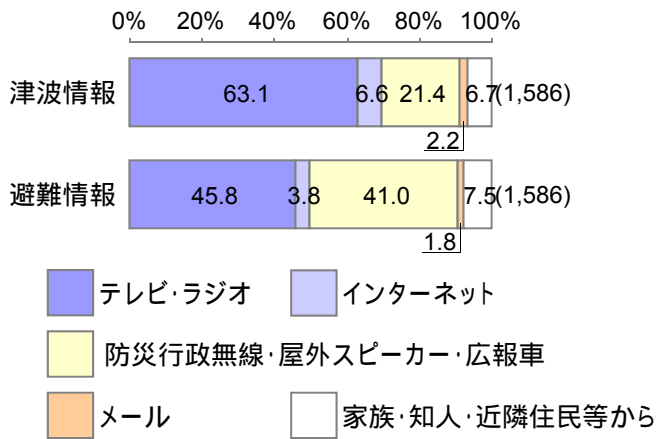


地震発生を知った際に、津波の襲来を想起した住民ほど、前日夜から情報に注意するなどの行動を取っていた

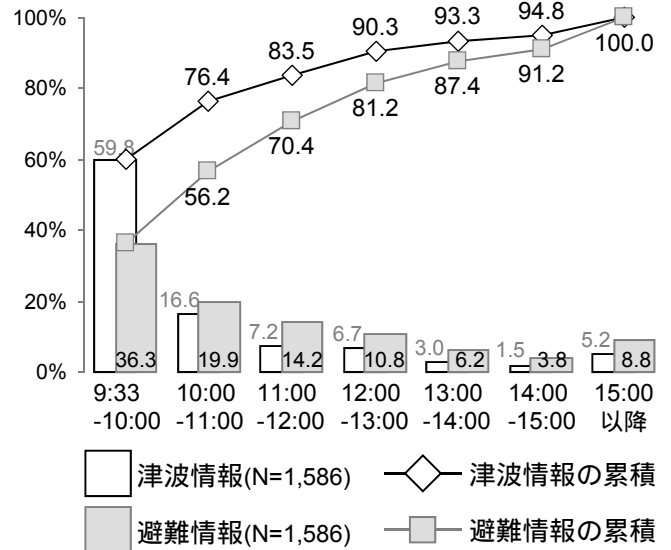
3. 津波情報(2/28 9:33)・避難情報が発表されたことを最初に知ったときの状況

避難勧告・避難指示が発表された地域の住民(1,586人)を対象に集計

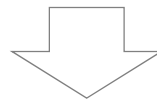
津波情報・避難情報が発表されたことを最初に知った手段



津波情報・避難情報が発表されたことを最初に知った時刻



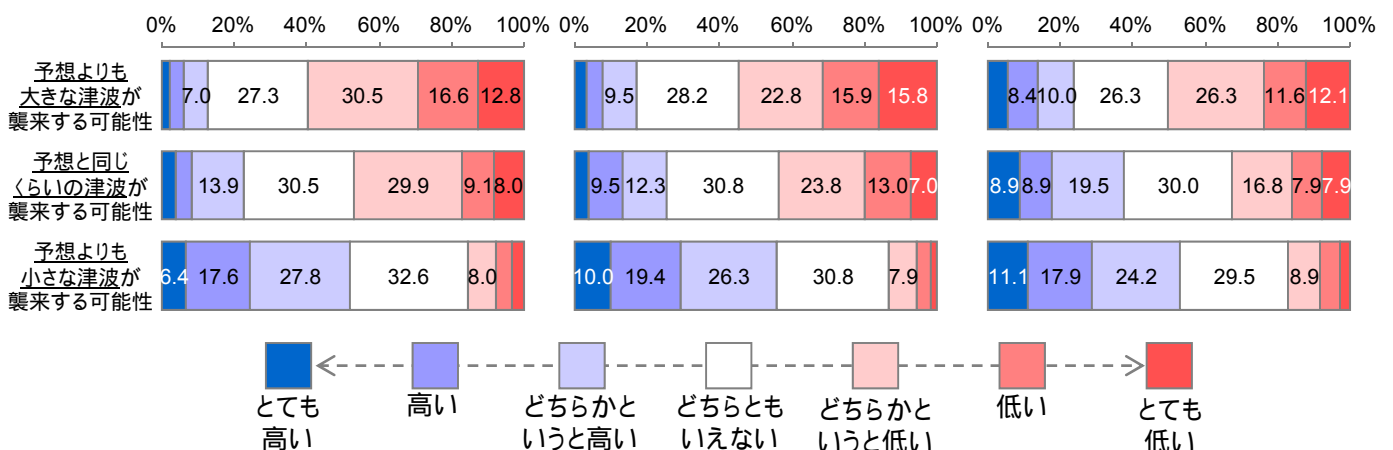
津波情報について
 ・半数以上の住民は、テレビ・ラジオによって、発表直後に津波情報が発表されたことを知っていた
 避難情報について
 ・津波情報を取得した手段と比較すると、防災行政無線・屋外スピーカー・広報車の割合が高い
 ・津波情報の発表と同時に、機械的に避難情報を発表した市町村があったため、避難情報についても、津波情報発表直後の時間帯に知った住民の割合が最も高い



津波情報の発表直後(9:30~10:00)に、そのことを知った回答者(948人)を対象に集計

津波情報が発表されたことを最初に知った際に襲来する可能性があると思った津波の大きさ

a. 津波警報(1m)が発表された地域の住民(N=187) b. 津波警報(2m)が発表された地域の住民(N=871) c. 津波警報(3m)が発表された地域の住民(N=190)

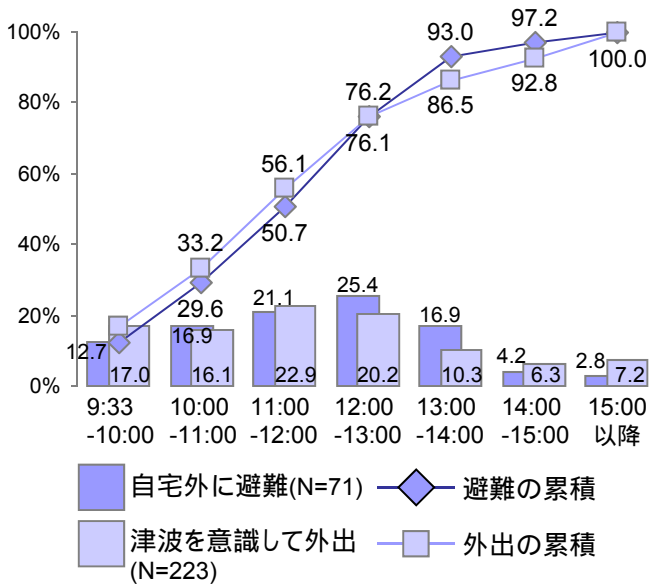


発表された津波の予想高さの大きさに関わらず、
 ・半数以上の回答者は、発表された予想高さよりも大きな津波が襲来する可能性は低いと思った
 ・逆に約半数の回答者は、発表された予想高さよりも小さな津波が襲来する可能性が高いと思った

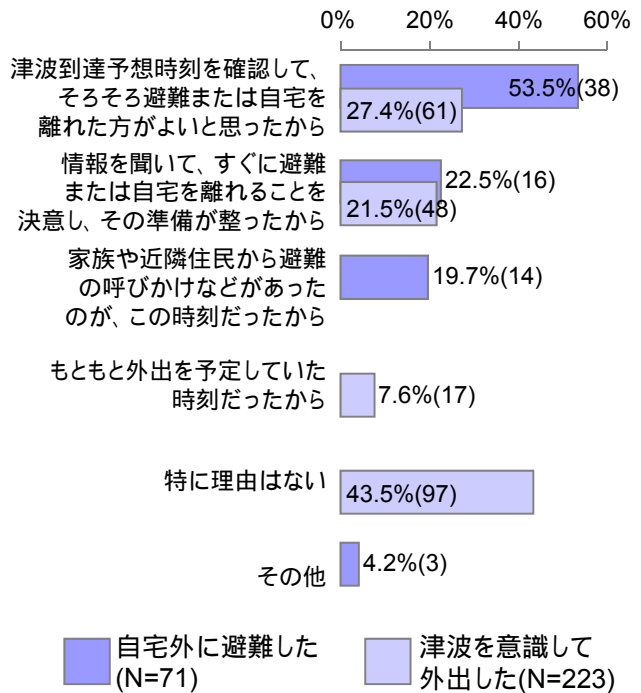
5. 自宅外に避難した人・津波を意識して外出した人の行動(1)

避難勧告・避難指示が発表された地域の住民(1,586人)のうち、津波からの被害を逃れるために自宅外に避難した人(71人)と津波のことを意識して自宅から外出した人(223人)を対象に集計

避難・外出のために自宅を離れた時刻

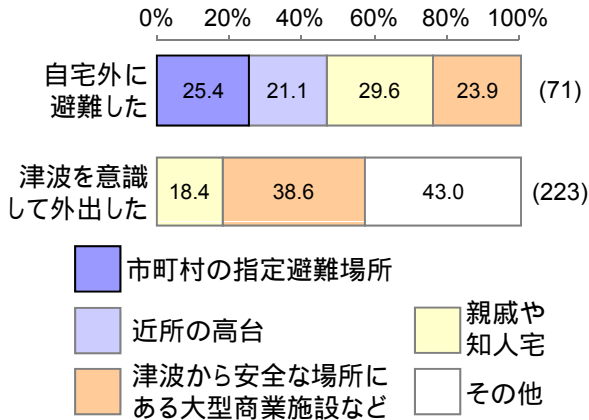


避難・外出のために自宅を離れた理由



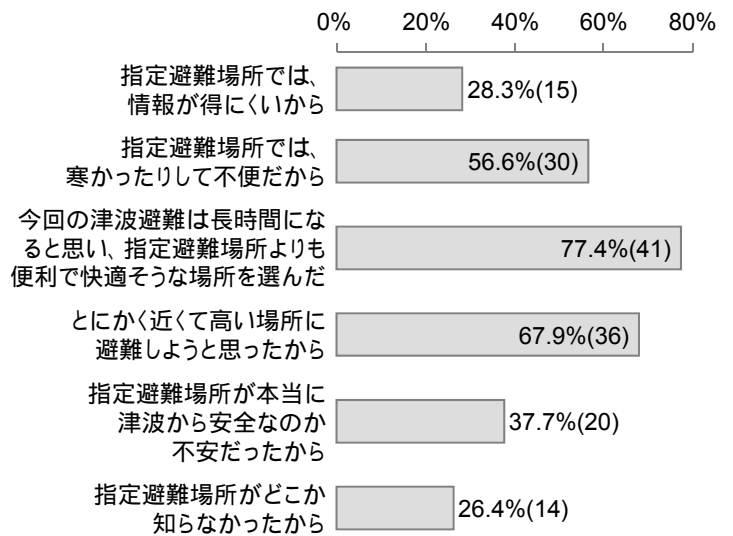
1/3の住民は、津波到達予想時刻を確認して、自宅を離れていた

避難先・外出先



『避難した』と回答した住民(71人)のうち、指定避難場所以外に避難した住民(53人)を対象に集計

指定避難場所に避難しなかった理由



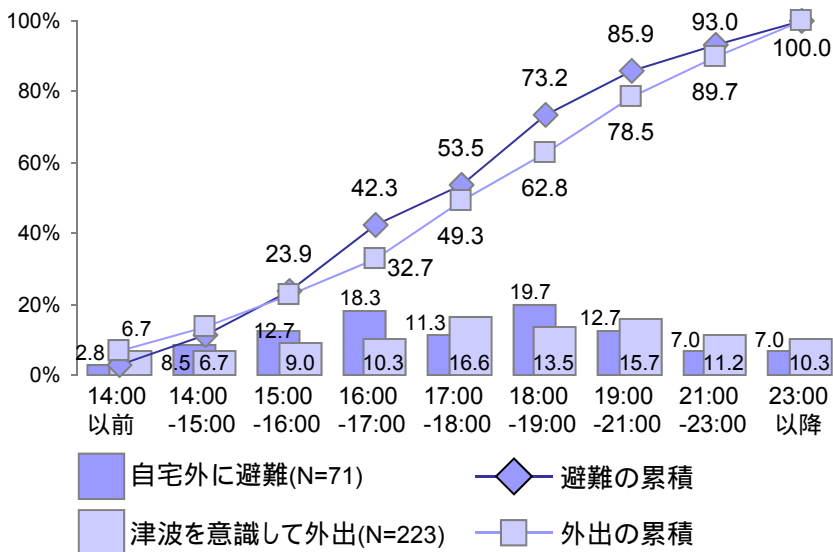
避難が長時間になることを想定して、指定避難場所以外に避難していた

自宅外に避難した人
 ・指定避難場所に避難した割合は非常に低い
 ・親戚・知人宅や大型商業施設への避難が半数以上

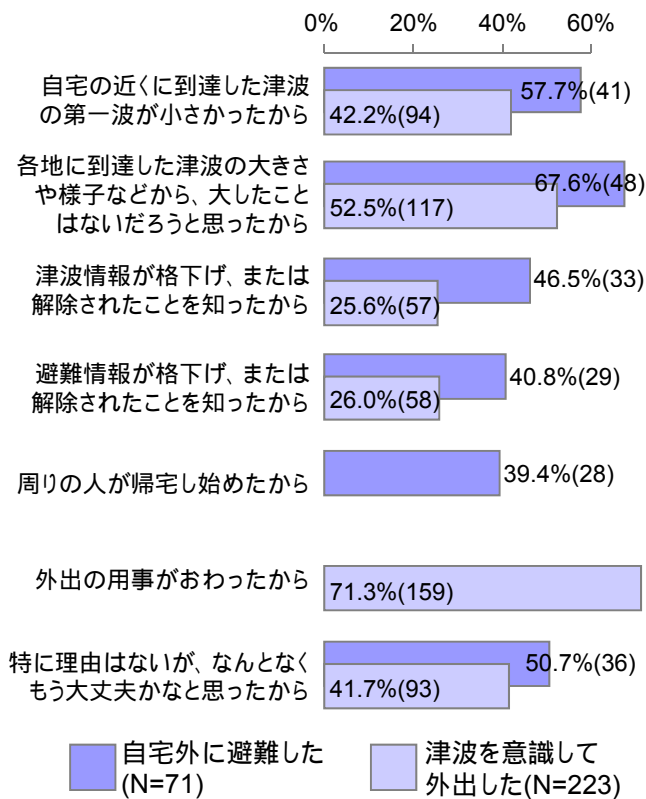
5. 自宅外に避難した人・津波を意識して外出した人の行動(2)

避難勧告・避難指示が発表された地域の住民(1,586人)のうち、津波からの被害を逃れるために自宅外に避難した人(71人)と津波のことを意識して自宅から外出した人(223人)を対象に集計

避難先・外出先から帰宅した時刻



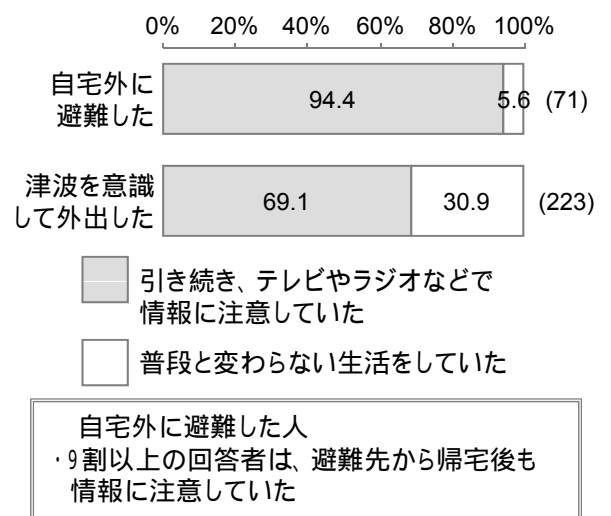
避難先・外出先から帰宅した理由



■ 自宅外に避難した(N=71) ■ 津波を意識して外出した(N=223)

津波情報や避難情報の格下げ・解除よりも、先に到達した津波が予想よりも小さかったことが帰宅した理由として高い割合であげられている

帰宅後の行動

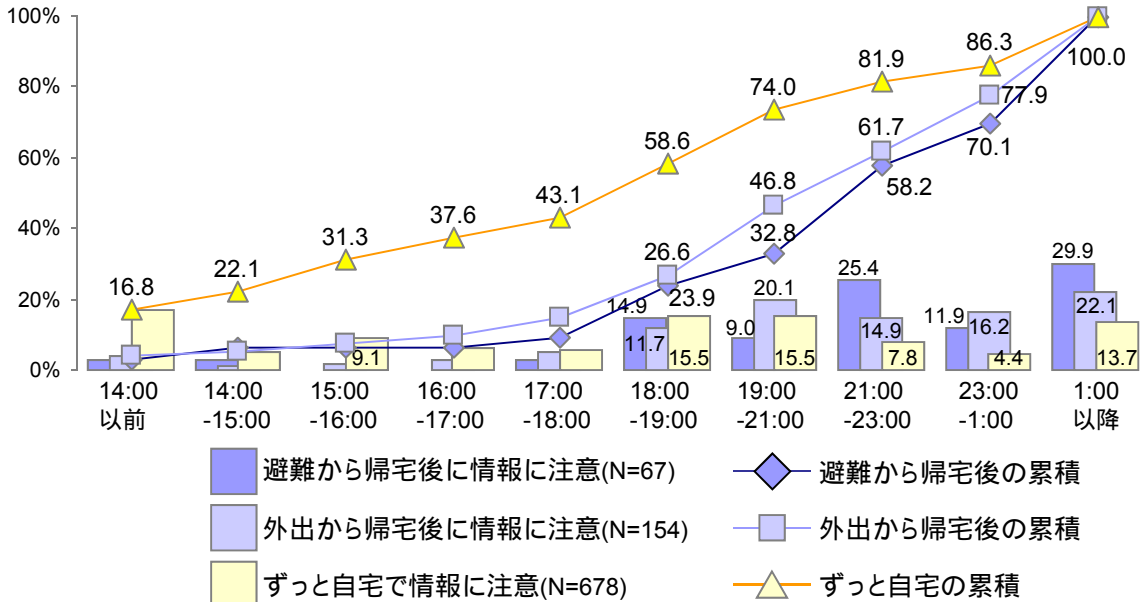


自宅外に避難した人
・9割以上の回答者は、避難先から帰宅後も情報に注意していた

6. 情報に注意することをやめた(津波への警戒を解除した)状況

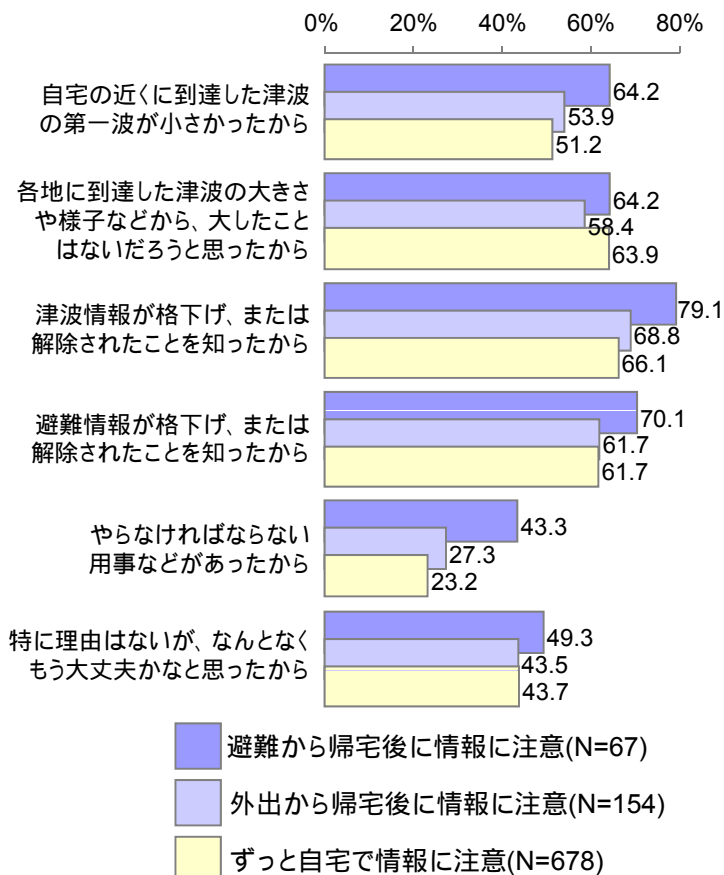
避難勧告・避難指示が発表された地域の住民(1,586人)のうち、自宅外に避難した人と津波のことを意識して自宅から外出した人のうち、帰宅後も情報に注意していた人(67人、154人)と、自宅で情報に注意していた人(678人)を対象に集計

情報に注意することをやめた時刻



避難や津波を意識して外出した回答者よりも、ずっと自宅で情報に注意していた回答者の方が、早いタイミングで情報に注意することをやめていた

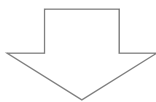
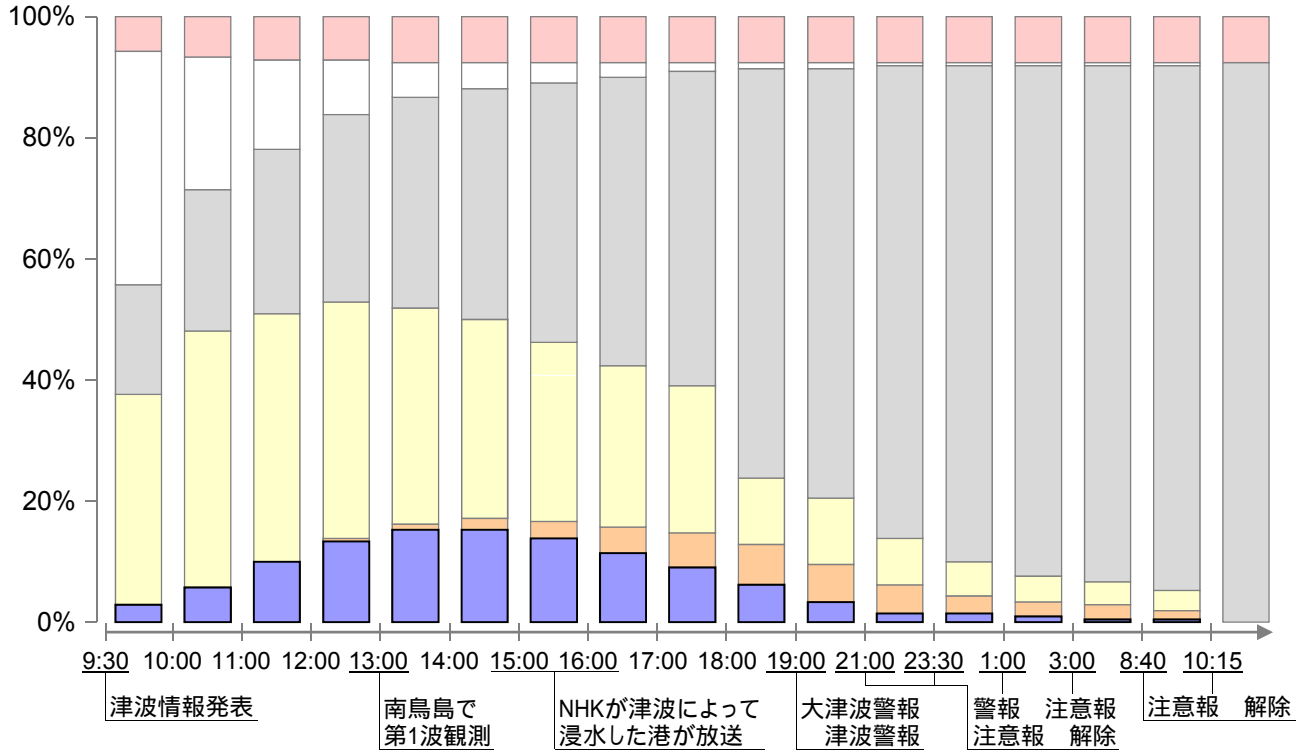
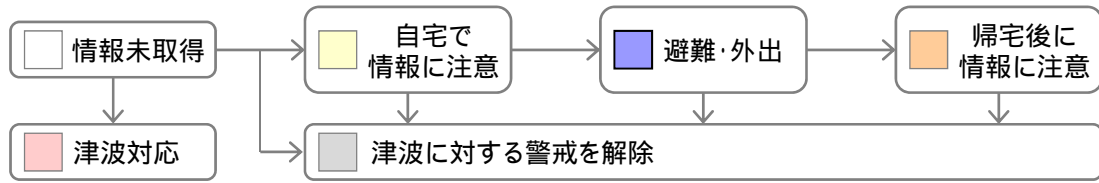
情報に注意することをやめた理由



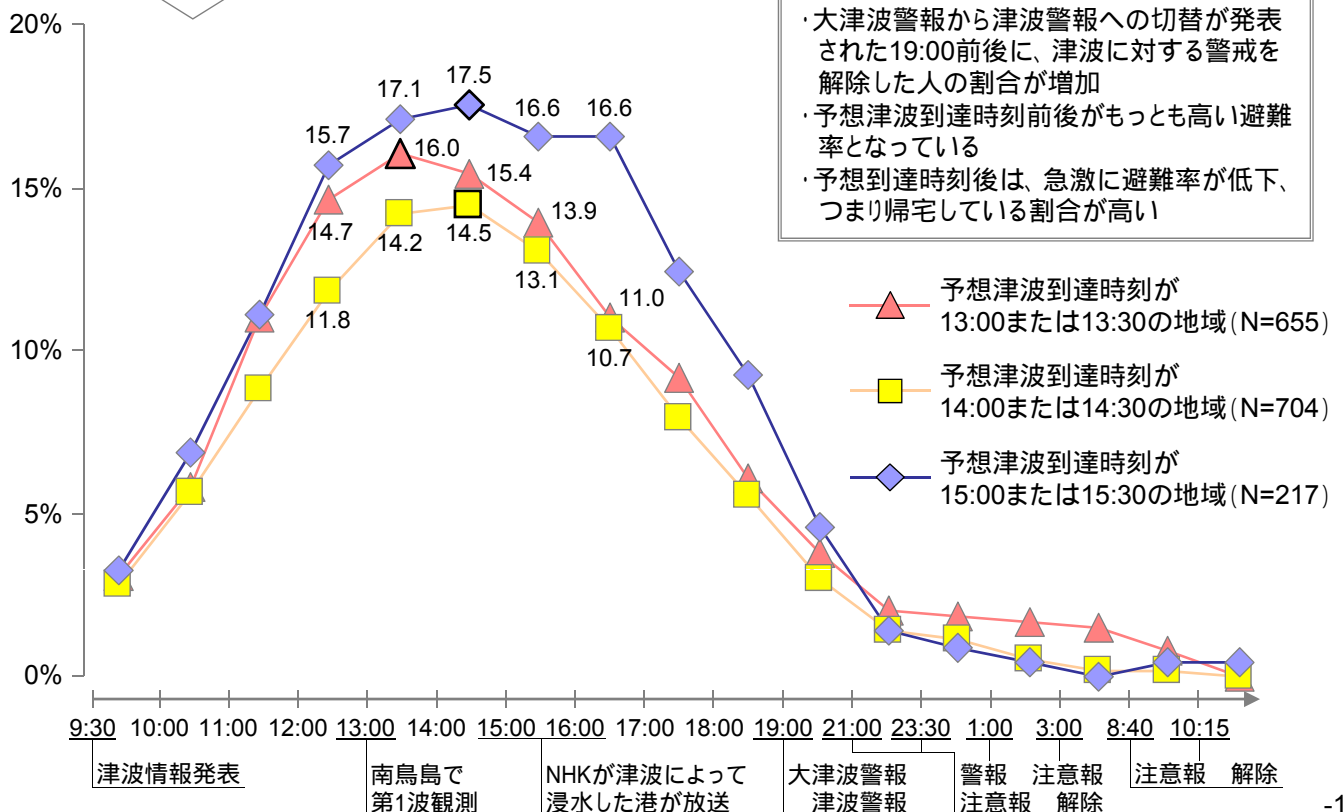
7. 津波警報の津波予想到達時刻別・当日の行動に関する時系列分析

避難勧告・避難指示が発表された地域の住民(1,586人)を対象に集計

当日の行動の時系列分布



津波の予想到達時刻別に、避難・外出の割合を比較

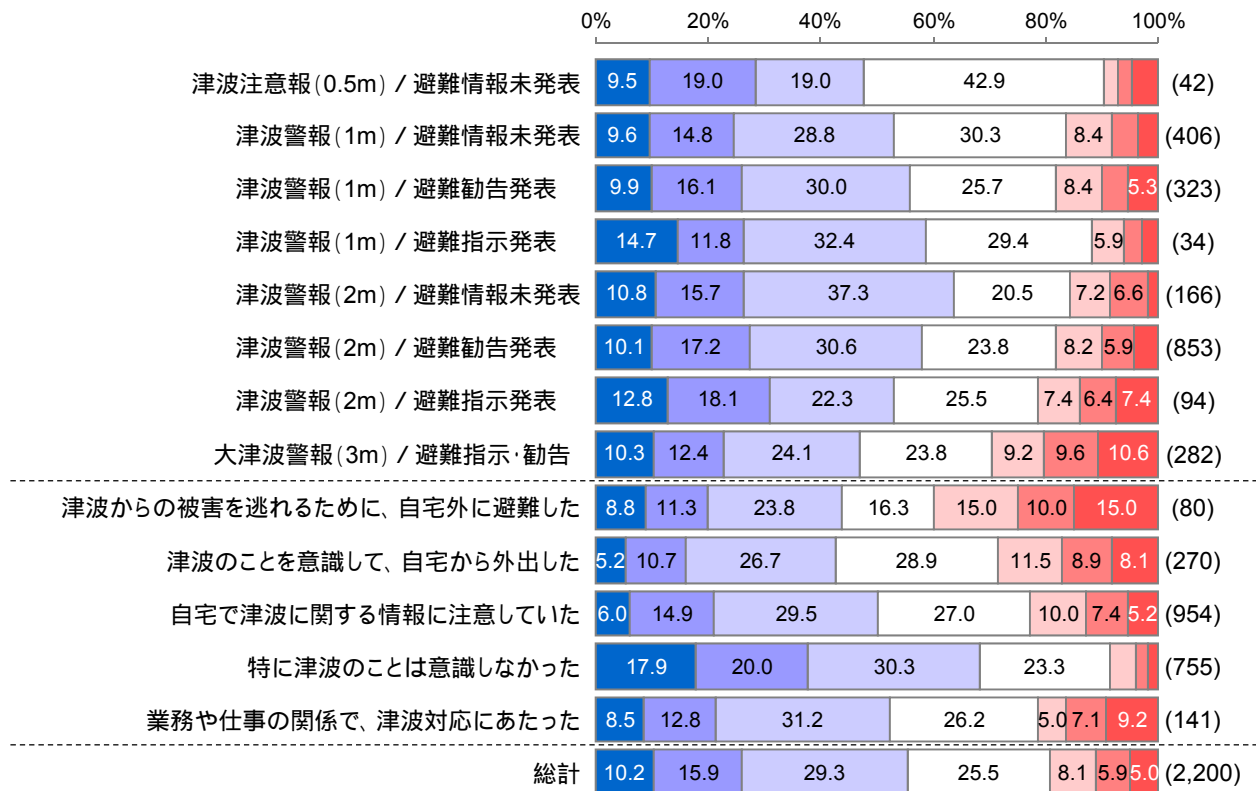


- ・大津波警報から津波警報への切替が発表された19:00前後に、津波に対する警戒を解除した人の割合が増加
- ・予想津波到達時刻前後がもっとも高い避難率となっている
- ・予想到達時刻後は、急激に避難率が低下、つまり帰宅している割合が高い

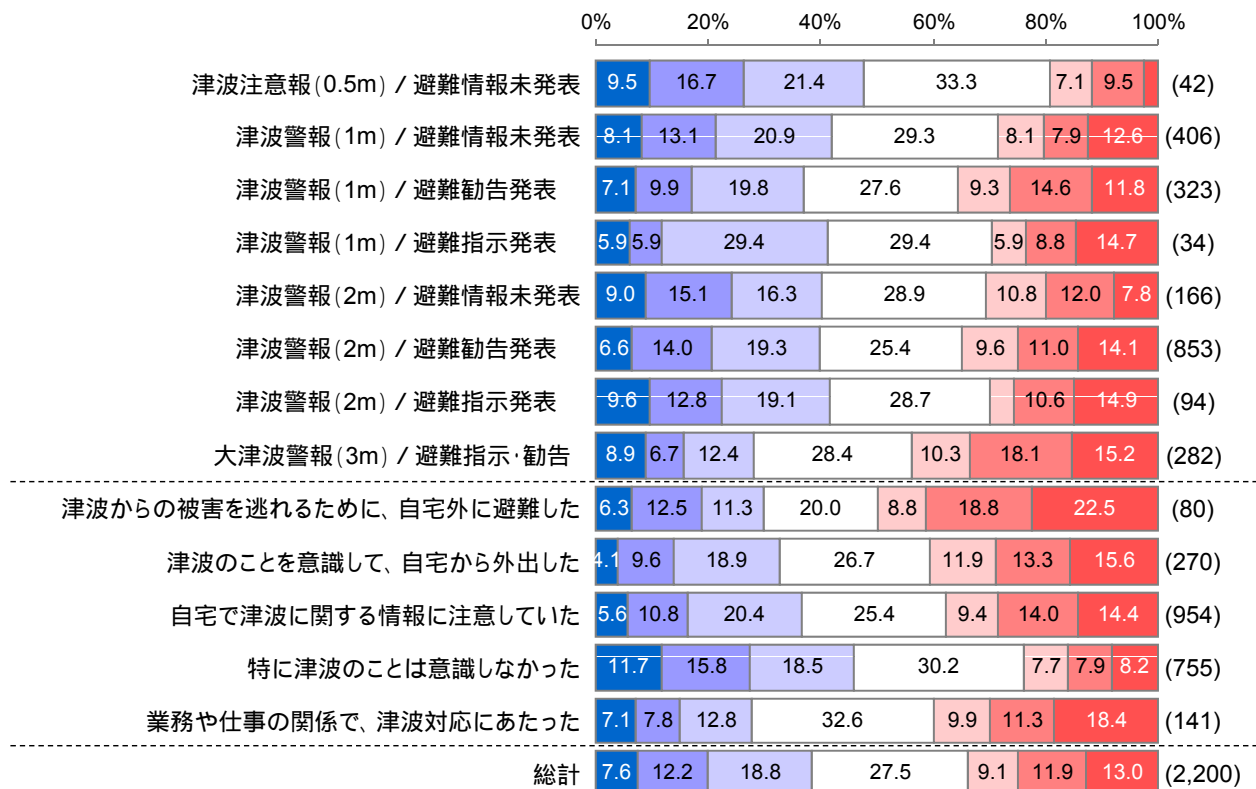
8. 今回の津波騒動に関する感想など(2)

今回の津波騒動時の自らの行動を決めるのに、どんな判断をしたのか？

気象庁から津波情報が発表されたが、毎回予想よりも小さい津波しか襲来していないので、今回も大したことにはならないだろうと思った



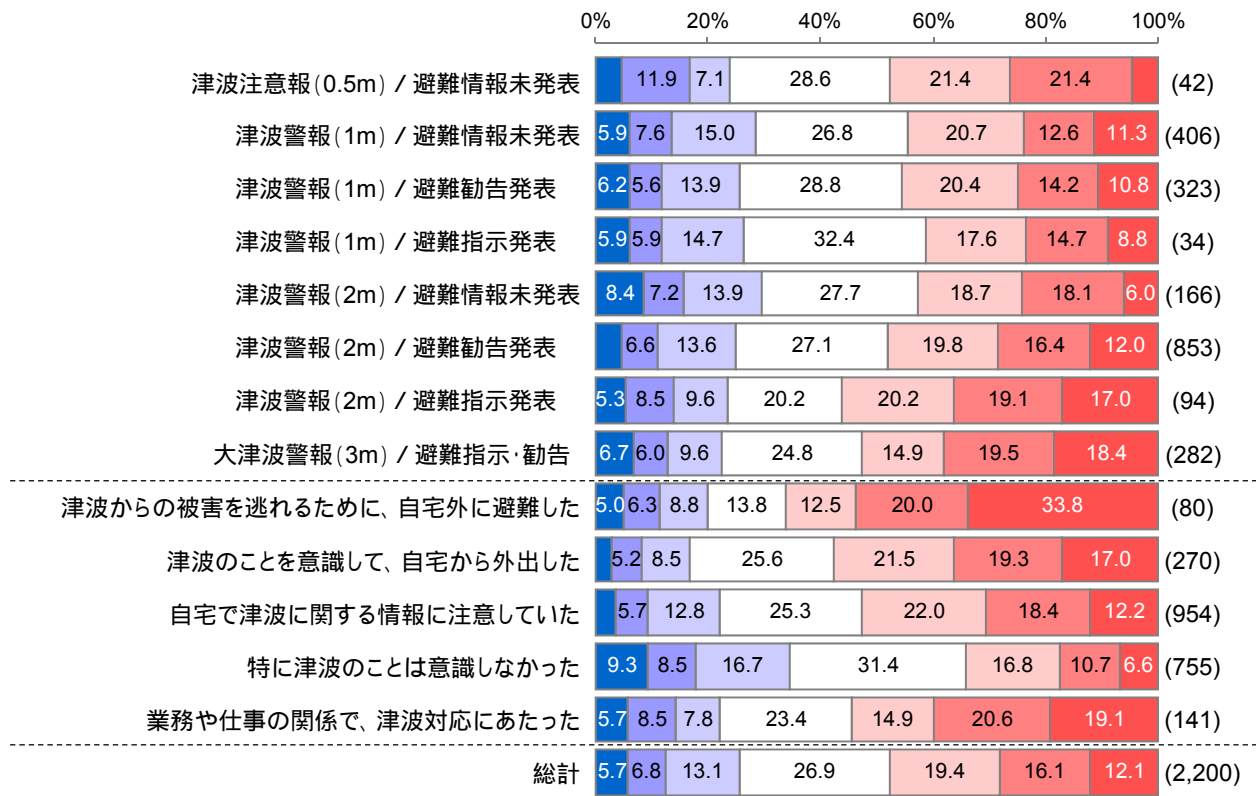
津波情報が発表されているのに、東京マラソンが開催されていたので、それほど心配することもないんだなと思った



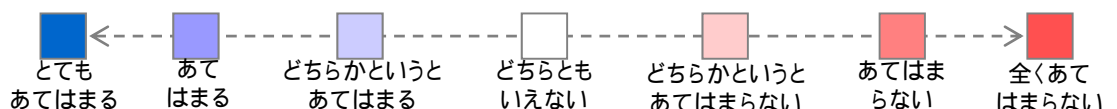
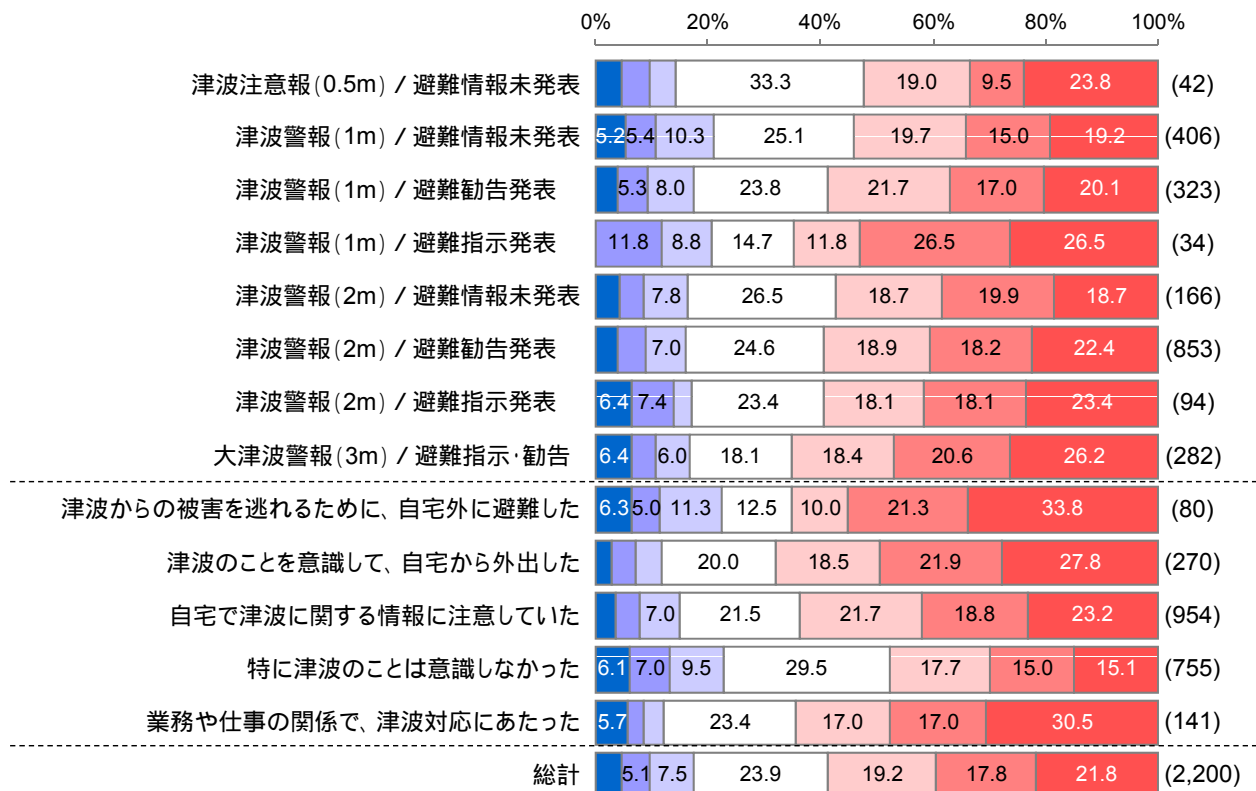
8. 今回の津波騒動に関する感想など(3)

今回の津波騒動時の行政をはじめとする社会の対応はやりすぎだと思うか？

今回の津波騒動での行政や交通機関の対応はやりすぎ(過剰)だったと思う



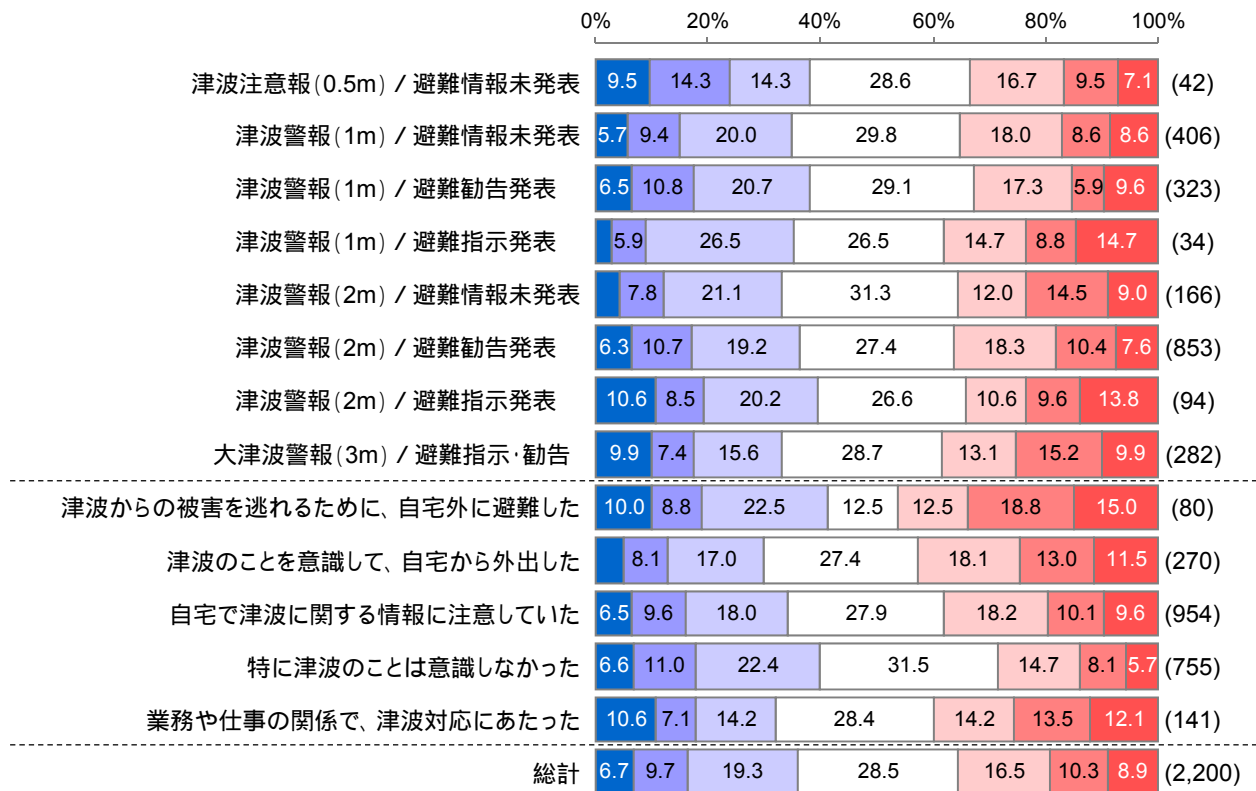
気象庁は今回の津波騒動について、「津波の予測が過大だった」と謝罪したが、これだけ予想をはずしたのだから謝罪するのは当然だと思う



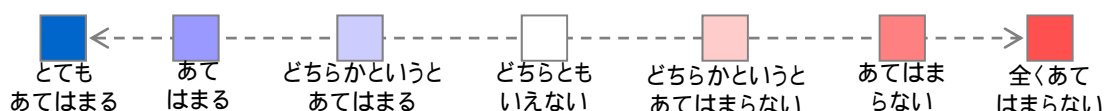
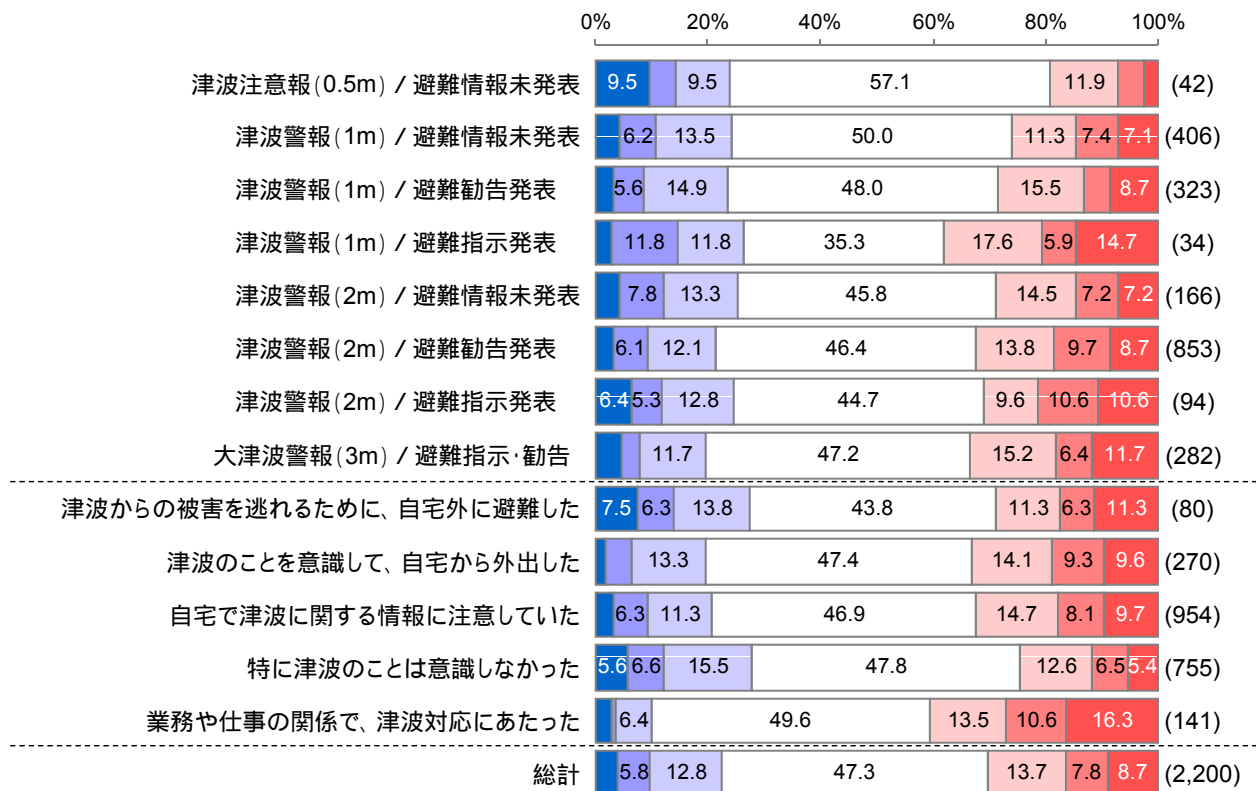
8. 今回の津波騒動に関する感想など(4)

今回の津波騒動時の行政をはじめとする社会の対応はやりすぎだったと思うか？

前原誠司国交相は、今回の津波情報に対して、「しっかり準備するには過小よりも過大であった方がいい」と発言したが、過大な津波情報に振り回される住民の心情も理解すべきだと思う



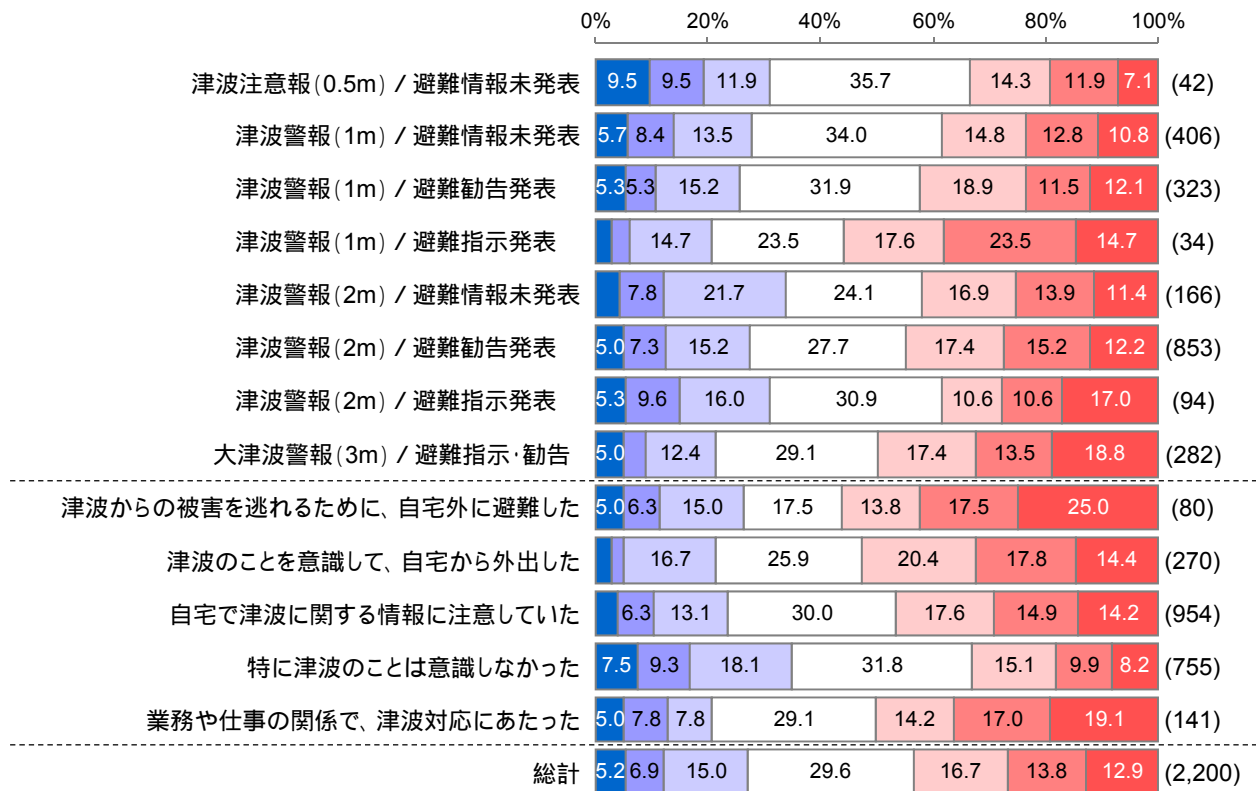
中井洽防災担当相は、津波情報が発表されているのに、東京マラソンの開催を決定した東京都の判断に対して疑問を呈していたが、今回の東京都の判断は正しかったと思う



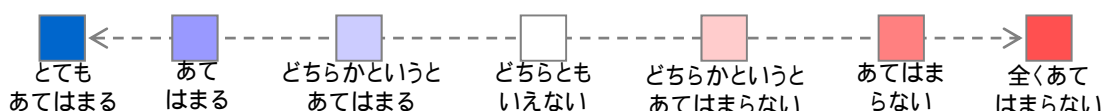
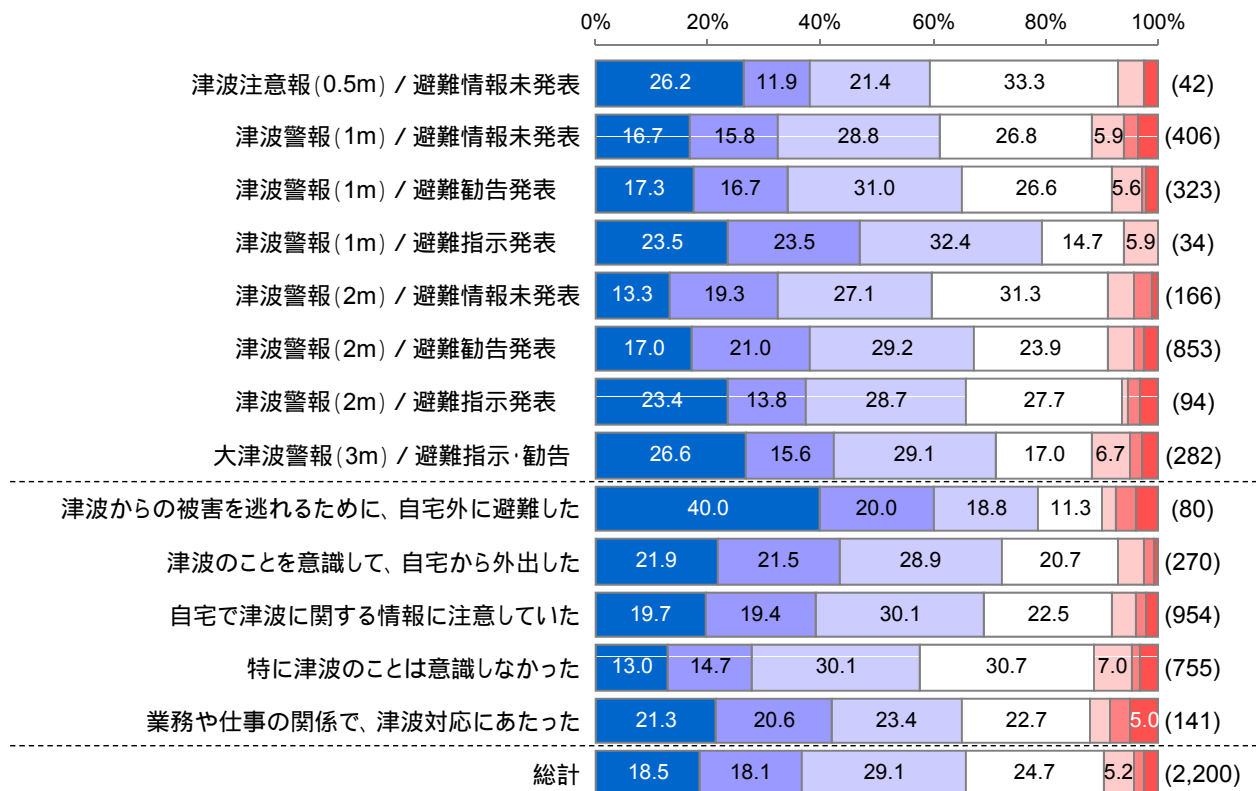
8. 今回の津波騒動に関する感想など(5)

津波に対する今後の社会対応について

はずれる可能性が高いのであれば、社会を混乱させるだけなので、
 今後は津波情報の発表にもっと慎重になるべきだと思う

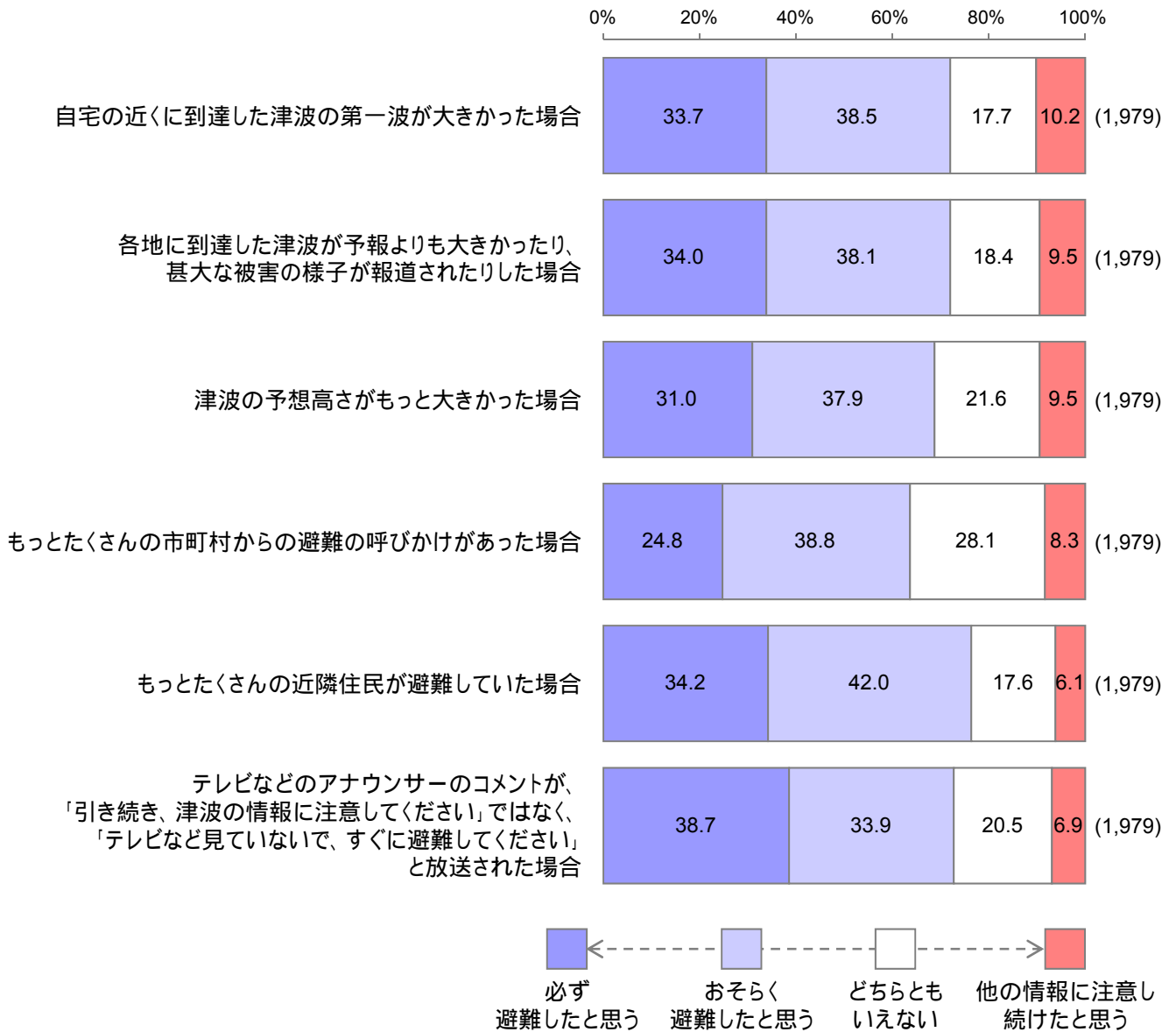


津波発生の可能性が少しでもある場合には、今後も今回と同じように対応するべきだと思う



9. 今回の津波騒動時を踏まえた仮想状況下における避難意向(1)

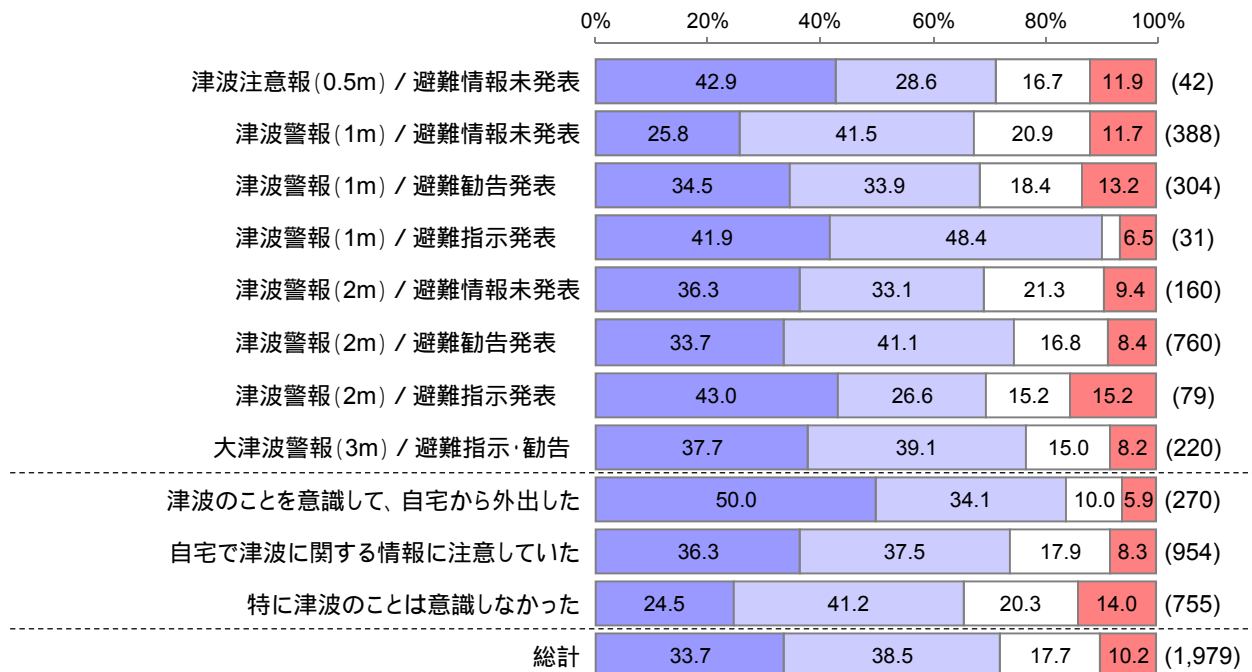
津波のことを意識して、自宅から外出した人(270人)、自宅で津波に関する情報に注意していた人(954人)、特に津波のことは意識せずに外出または自宅にいた人(755人)を対象に集計



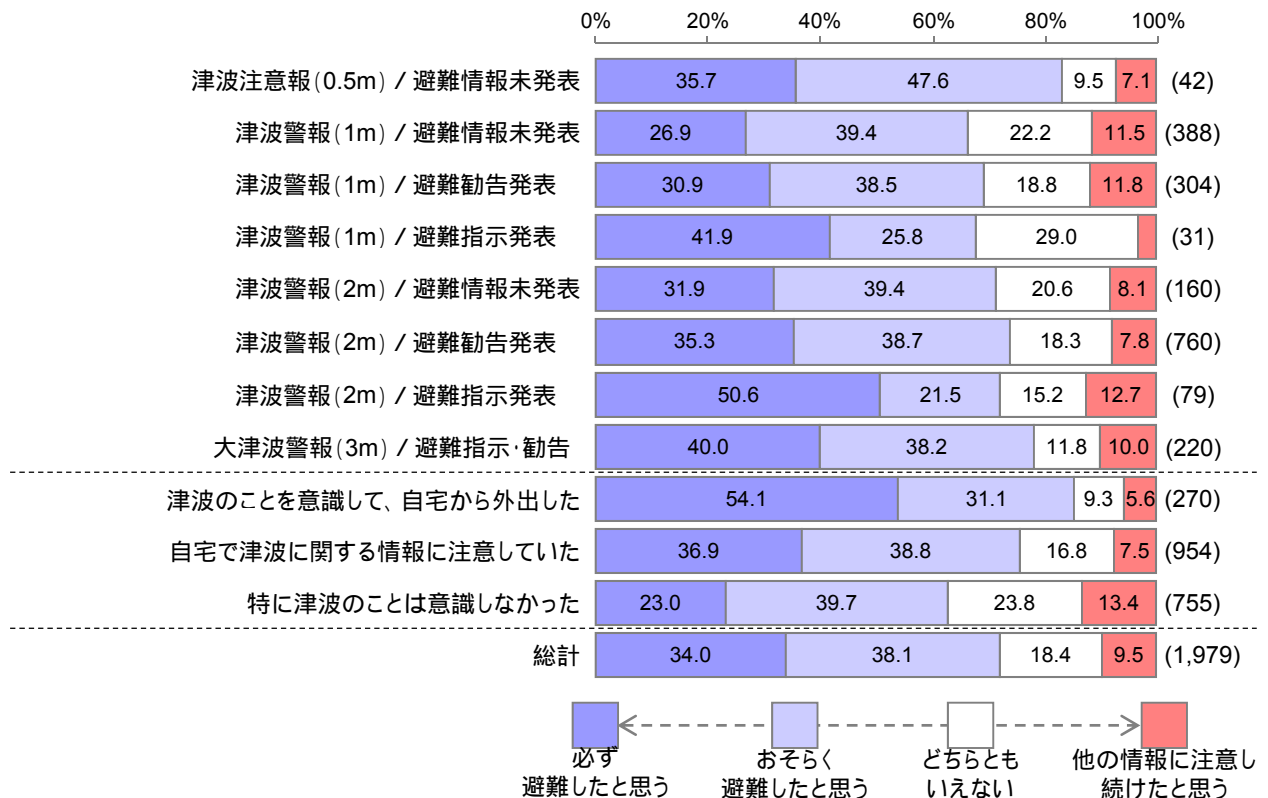
9. 今回の津波騒動時を踏まえた仮想状況下における避難意向(2)

津波のことを意識して、自宅から外出した人(270人)、自宅で津波に関する情報に注意していた人(954人)、特に津波のことは意識せずに外出または自宅にいた人(755人)を対象に集計

自宅の近くに到達した津波の第一波が大きかった場合



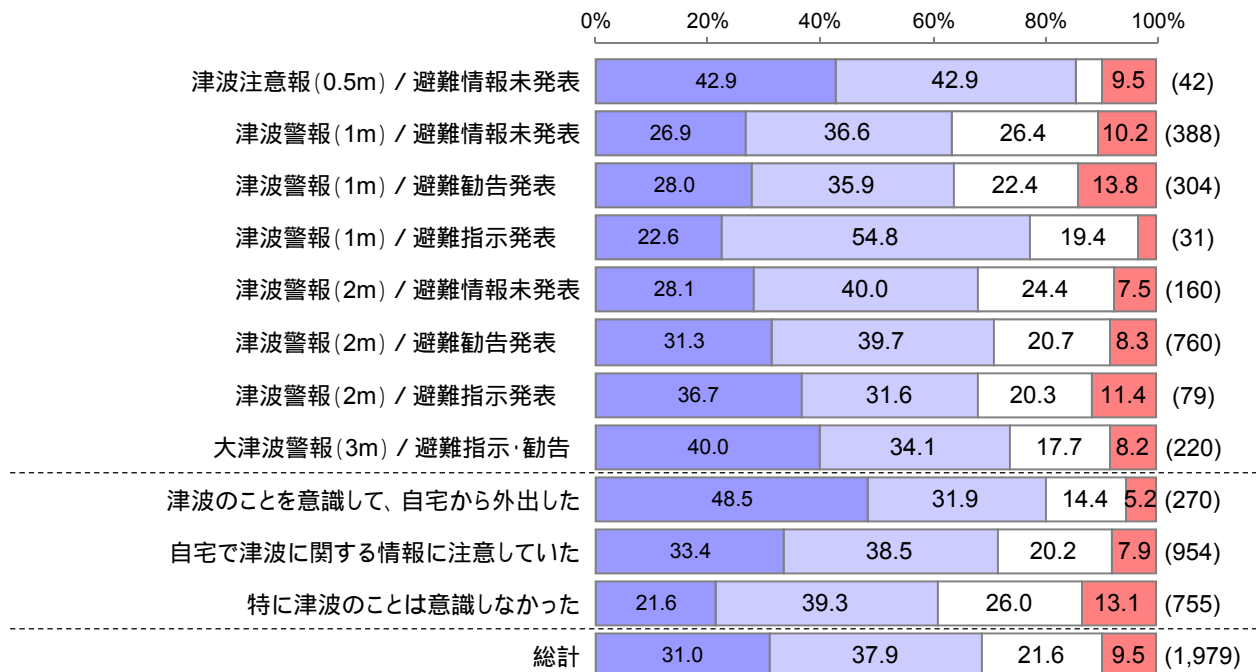
各地に到達した津波が予報よりも大きかったり、甚大な被害の様子が報道されたりした場合



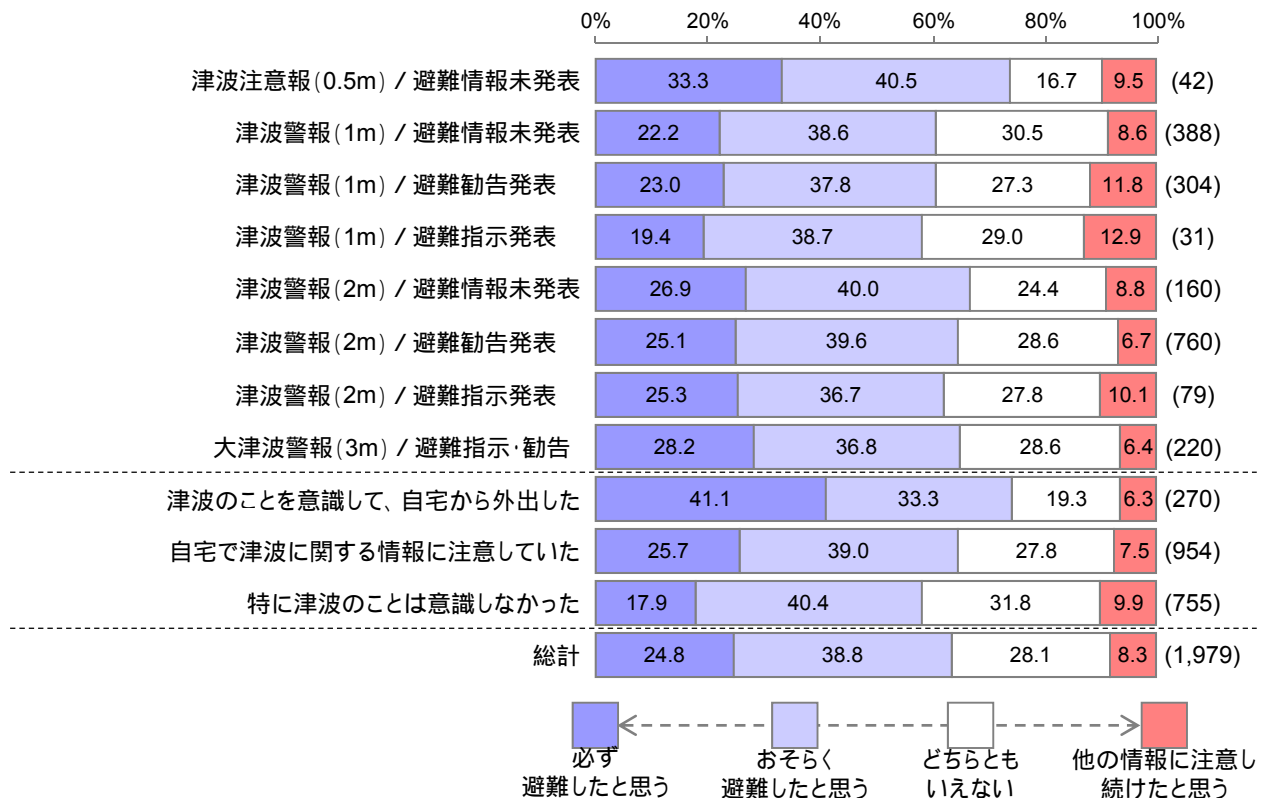
9. 今回の津波騒動時を踏まえた仮想状況下における避難意向(3)

津波のことを意識して、自宅から外出した人(270人)、自宅で津波に関する情報に注意していた人(954人)、特に津波のことは意識せずに外出または自宅にいた人(755人)を対象に集計

津波の予想高さがもっと大きかった場合



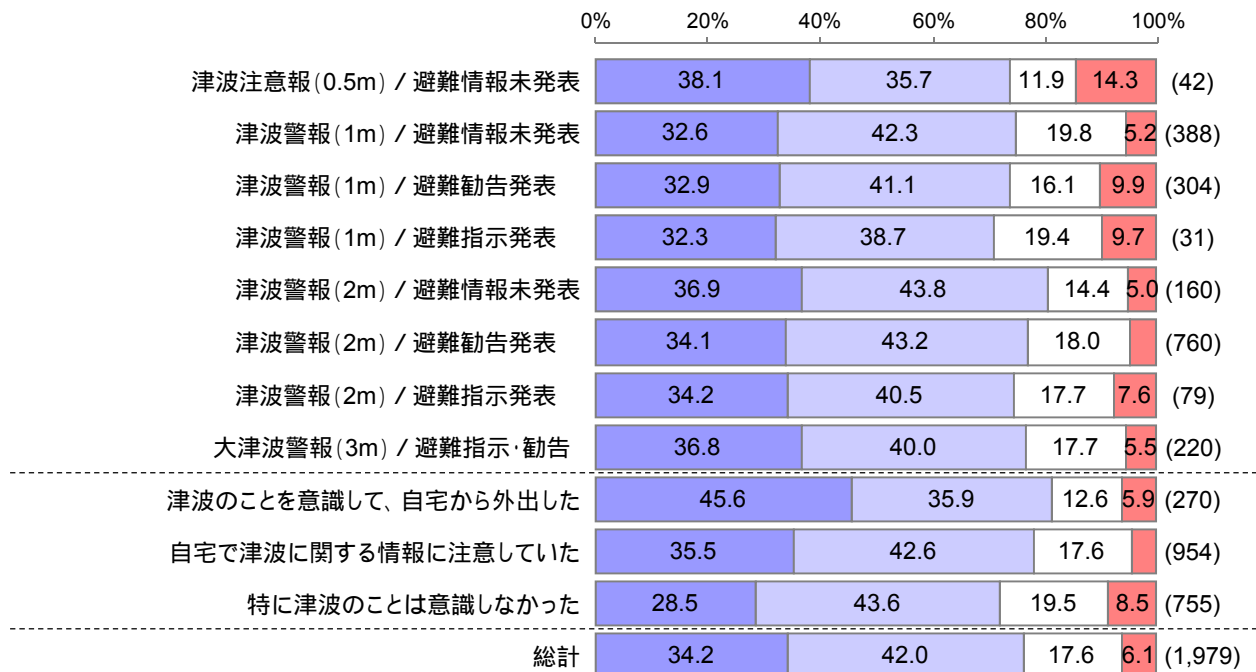
もっとたくさんの市町村からの避難の呼びかけがあった場合



9. 今回の津波騒動時を踏まえた仮想状況下における避難意向(4)

津波のことを意識して、自宅から外出した人(270人)、自宅で津波に関する情報に注意していた人(954人)、特に津波のことは意識せずに外出または自宅にいた人(755人)を対象に集計

もっとたくさんの近隣住民が避難していた場合



テレビなどのアナウンサーのコメントが、「引き続き、津波の情報に注意してください」ではなく、「テレビなど見ていないで、すぐに避難してください」と放送された場合

